

医療機関間画像情報連携の課題と今後の展望

～アンケート報告～

座長集約

座長 みやぎ県南中核病院 坂野隆明

本シンポジウムでは、東北大学病院 診療技術部 放射線部門の志村 浩孝先生より、「医療機関間画像情報連携の課題と今後の展望 ～アンケート報告～」と題して、医療機関間での画像情報連携の現状と課題について報告が行われました。

PDI(可搬型媒体による医用画像提供)は現在も標準的に運用されていますが、2016 年改定の「患者紹介等に付随する医用画像についての合意事項」があるにもかかわらず、トラブルが継続している現状があります。アンケート調査の結果、IHE-PDI および合意事項の認知度は 88%と高いものの、76%の施設で画像が読めなかった経験があると回答がありました。読めなかった理由として最多だったのは、メディア表面の損傷などが原因となる「メディアが認識しない」(14 施設)でした。また、UID の不正や文字コード設定誤りなど、DICOM 規格に対する違反も問題として挙げられています。運用実態として、画像を受け入れた施設のう

ち 88%が取込システムで取り込みを行っており、その際、患者 ID を自施設の情報に変更していることが分かりました。

今後の展望として、シンスライスデータなど大量画像データを送る際には、ウイルスチェックや取り込み時間への影響を考慮し、合意事項の適用外事項となっている施設間での事前合意を行うことが提言されました。また、ブーメラン画像(自院画像の再取り込み)の認識において整合性を保つため、取り込み時に UID の変更を行わないことが望ましいと示唆されました。実運用に合わせ、DVD-R の使用容認や圧縮画像の許容など、合意事項の修正要望事項もありました。

今回の報告は、画像連携の円滑化に向け、技術的な DICOM 規格遵守と運用の標準化の双方の重要性が浮き彫りになりました。